



コルネリオ会

(防衛関係キリスト者の会)

ニュースレターNo. 120

2009年4月



救いの証

会員 石川 信隆

「わが魂よ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。(詩篇 103: 2)」

1. 求道時代

これから私がイエス様に会い、そしてクリスチャンになったいきさつをお話したいと思います。私が最初に教会に行ったのは、名古屋にある御器所教会というところで、高校1年のときでした。

その後、防衛大に入り、米海軍基地にある Chapel Hope という教会に英語の勉強にメッセージを聞きに行きました。そのとき「Righteousness」(正義)という単語が今でも耳に残っています。

それから、防衛大を卒業して、久留米の幹部候補生学校に行きましたが、そこでは禅宗のお寺に下宿しました。1年後水戸にある施設学校では、「Friend」というクエーカー教の教会に通いました。しかし、牧師先生によるメッセージも無く、礼拝も無かったので、イエス様が何のために十字架にかかって下さったのか、よく分かりませんでした。ただお互い輪になってお祈りをしているようでした。あるとき水戸にクリチャンクルセードがあり、ワニ博士が講演に来て「信じるものは前に出なさい。」と促されましたが、私はキリスト教そのものには憧れるが、キリスト教界(人間の輪)にはなんとなく、入りたくないという気持ちがあり、前に出ませんでした。その夏に山中湖で修養会があるので、申し込みをせず、友達を連れて、その修養会の会場を探して飛び込みました。キリスト教というのは、愛の宗教だから、受け入れてくれるだろうという甘えがありました。修養会の間すべて「沈黙」を守られました。全員祈祷のとき、ある人が「今回の修養会では、2人の失礼な者が入り込んできた。これからこのようなことが無いように」というお祈りをされました。冷や汗が脇の下を通るのを覚えました。また

帰りの電車の中で、ある女性クリスチャンから「あなたは自衛官なのにどうしてキリスト教に興味を示すのですか」「軍人は人を殺すことが仕事ではないのですか」と質問されました。返答に困ってしまい、それ以来、私はキリスト教から離れてしまいました。そして今まで大切に持っていた「聖書」を赴任した第9施設部隊のある八戸の下宿の中学生に上げてしまいました。

2. 苦悩時代

その後、九州大学大学院で修士課程・博士課程で研究に没頭して31歳のとき自衛官の制服を脱いで防衛庁教官講師になりました。しかし、研究の行き詰まりや体調の不良でいつもいらいらしたり、心に平安が無く、学生に怒ったり、妻や子供につらく当りました。そしてとうとう胃潰瘍で入院して、胃を切除してしまいました。40歳のときでした。入院した病院はヨセフ病院というところで、日曜日の朝、賛美歌が流れてきて、涙を枕に流しましたが、まだイエス様に会うことはありませんでした。退院後も食事が思うようにできないので、いらいらが益々つゆり、家に帰ると子供達は逃げてしまい、学生達も私に寄り付かなく、いつも陰い顔をしているようでした。指導する学生の研究もうまくいかず、再び胃が痛くなる日々が続きました。

3. きっかけ

防衛大学には当時今井健次先生というクリスチャン教授がおられ、「コルネリオ会ニュース」を私にも送ってくれていたのですが、いつもゴミ箱に捨てていました。その先生が退官パーティーのとき、「石川君、クリスチャンというのは、いいものだよ。」と「にこっ」と笑いました。その印象が忘れられなく、その後、1983年10月から妻が通っていた馬堀聖書教会に通い始めま

した。そしたら、少しづつ心に平安が得られるようになってきました。1986年8月に日本で第1回目のアジア軍人キリスト者会議があるというので、君も来ないかというお誘いを今井先生から受け、参加することになりました。人手がないので、君も司会をするようにといわれ、まだクリスチャンになってもいないのにと、妻に電話したら、お恵みだからやらしてもらったら、ということで、韓国・台湾・アメリカなど偉いクリスチャンの前で、見よう見真似で、あるセッションの司会を担当しました。その会議のなかで尾山令仁先生という方が、大正時代、日本軍が韓国の堤岩里（チュアムリ）教会を焼き討ちにしたお話をされました。尾山先生は「つぐない」をするため、日本で献金を募り、その教会の復興のためチュアムリ教会の方に説明に行ったのですが、どうしても受け入れられなかったのです。しかし、とうとう尾山牧師の熱意にほだされて、教会が復興されたというお話をされました。メッセージの終了後、韓国代表団が講壇に駆け登り、尾山令仁先生と固い握手をされました。また早天祈祷会で私は韓国のチャップレンと2人で手を握り締め、涙を流しながらお祈りをしました。イエス様はこの韓国のチャップレンを通して私の心に神様の赦しと愛を伝えて下さったのだということを知りました。

4. 洗礼

その年1986年10月には太平洋放送教会の羽鳥明先生が特別伝道集会に来られ、2日間4回のメッセージを涙ながらにされました。「主イエスを信じなさい、そうすればあなたもあなたの家族も救われます。」といわれ、手を上げました。手をあげた人は5-6人いたようですが、そのうち2人が洗礼準備会には入り、徳梅先生のご指導を受けました。ところが10回の準備会のうち、残りあと1回というところで、もう1人の人がいなくなってしまい、最後に残ったのは私1人でした。そして1986年12月7日この馬堀聖書教会でリード宣教師から洗礼を受けることができました。49歳のとき

でした。徳梅牧師は断食祈祷して私のために祈って下さったことを後で知りました。それ以来、仕事の面や家庭の面で多くの祝福を神様から受けました。

5. 受洗から今日まで

1989年2月から私の研究室で聖書研究会が徳梅先生のご指導でもたれ、私の退官するまで約14年間、主のお守りの中で続けることができました。そして退官後、しばらく馬堀聖書教会で続けられ、学生たちに福音が伝えられてきました。また授業の前5分間だけ「今日の一言」として学生の生活に必要な聖書のみ言葉を黒板に書いて、学生に励ましを与えました。例えば、「求め続けよ。さらば与えられん。」「思い煩うな。あなたの道を主（天）にゆだねよ。」「主（天）は決してあなたを見捨てず、見放さない。」「あなたは高価で尊い。防大生は国の宝。」「すべての営みには時がある。勉強するのに時がある。」「誰でも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされる。」など。1995年日本で第2回目のアジア大会（池袋、コルネリオ会副会長として）、2002年の第3回目アジア大会（市ヶ谷、コルネリオ会会長として）、2004年世界大会（ソウル、コルネリオ会会長として）、2005年軍人キリストリーダー研修会（品川、コルネリオ会会長として）を開催し、また参加して大いなる祝福を受けました。

2010年9月にはコルネリオ会主催で今市会長のもとで、再び日本で第4回目のアジア大会を開催する予定です。皆様のご協力とお祈りをお願いします。このアジア大会や世界大会を通して、現在、世界の軍人キリスト者会の会長である李（Lee Pil Sup）将軍や、テモテ会を創設された権（Kwon Tae Whan）大佐にお目にかかることができたことは、本当に主の恵みであると思っています。

この証しは、2009年2月28日テモテ会（韓国軍人キリスト教の信仰の交わり会）で話したものに一部加筆したものです。

平和と軍備

西澤邦輔

五歳年長の兄が、東大法学部在学中に学徒出陣で海軍航空隊の予備学生となり、終戦二ヶ月前に比島で切り込み戦死したことは、私の齢と共に深まる悲しみである。

しかし、だからと言って、戦争絶対反対を叫ぶ気

はならないし、そうすることが兄に対する供養であるとも思えない。先の見えない戦争に命を賭けた世代であるせいか、敗戦と共に国民最大のスローガンとなった「平和」にはなぜか違和感を覚える。

(一、正義)

戦争の悲惨が語られる場合、その多くは敗北を嘗めたがゆえの悲惨である。それゆえ、悲惨であるから戦争に反対という論理には、もし勝者になっていればどう考えたであろうかと想像しないではいられないものがある。

負ける戦争をしたのがけしからんという主張もよく聞かれる。裏返して言えば、勝つ戦争なら必ずしもけしからんわけではないということになる。要するに、正義の問題が無視されている。正義が辛うじて問題にされるのは専ら、正義を問題にするから戦争が絶えないという否定的な面だけである。

戦争が最大の悲惨であるかのごとく思うのは、それがもたらす悲惨の量的大きさに目を奪われるからである。ところが、悲しいかな、人の世には、戦争の悲惨よりももっと深刻な悲惨があって、それを除くためには戦争の悲惨が避けられないということがありうる。例えば、人権が剥奪された奴隷状態の社会、或いは、集団が集団に対する侵略行動、等々。

(二、覚悟)

しばしば、戦争絶対反対論は単純に軍備不要論となり、無軍備こそ平和の大前提であるかのごとく主張されるが、無軍備は、自国から仕掛ける戦争を不可能にしても、他国から仕掛けられる戦争を不可能にはしない。却って、力の真空状態を作って、これが外からの侵入を誘発する。その誘惑に負けない強国は歴史的には稀であろう。そうして、無軍備国は戦争になる前の段階で早くも他国の意志に振り回されて、戦争による犠牲に優る犠牲に甘んじなければならなくなることすらある。

そのような犠牲の可能性を承知した上での絶対無抵抗を主張するのであれば、国民にそれを納得させ覚悟させなければならない。それなしに、無軍備であれば犠牲のない絶対平和が今にもありうるかの如く期待させるならば、それは次世代に対する無責任と言わざるをえない。

(三、責任)

国際的正義実現を使命とする世界軍があれば、自国の平和と安全を確保するために自国の国防軍を持つ必要はないという暗黙の期待があるのではないか。

そもそもそんな世界軍があるとしても、その兵士とは、天から地上に降り落ちた不死身の天使の軍勢であるはずはなく、あくまでも地上の現実の諸国民で構成される犠牲覚悟の連合軍であらざるをえない。そのような共同責任社会にあって、自国防衛のための可能な

限りの努力をせず、いわんや世界の正義社会実現に献身する意志もなく、ただ保護される立場ばかりを主張するとすれば、それは国家の品格として問題であるばかりか、そのような責任逃れの平和に確かな持続性があるとは思われない。

(四、軍備)

兵器は凶器であるが、だからと言ってこれを全く拒否するわけにいかないのは、包丁を、凶器になるからと言って、使用禁止にするわけにいかないのと同様である。また、兵器は凶器であるから、できるだけ実用しないのが理想であるが、だからといって、持ち腐れになるなら初めからないがましということにはならない。一流剣士は、生涯一剣を磨いたればこそ生涯一人をも殺さずにすむのである。

つまり、戦争を近づける軍備もあれば、戦争を遠ざける軍備もある。戦争を遠ざけて不発に終らせる軍備こそ、恐れられもせず侮られもしない品格を国家に与え、世界に平和への一步を踏み出させる軍備である。

戦争か平和かは、単純な二者択一ではない。平和を遠ざける戦争もあれば、平和を近づける戦争もある。

戦争を近づける平和もあれば、戦争を遠ざける平和もある。一挙に満点の平和を实らせることはできない。平和を近づける戦争と、戦争を遠ざける平和とが、繰り返されて、徐々に時間をかけて平和は実るのである。

(五、原爆)

超大威力の原爆を持たない軍備は無力無意味であるという解釈から、一方で軍備不要論があり、他方で原爆必携論がある。しかし、無軍備は侮りを招き原爆保有は恐れを招く。いずれも平和を近づける道ではなく遠ざける道である。

結果的に勝者なき原爆戦の可能性を前にしては、原爆を持たないがゆえに見舞われるかもしれない被爆という究極の悲惨を、国民共に十分認識し覚悟した上で、敢えて原爆を持つとしない意志を貫くより他に道はない。原爆は持たないことに平和貢献の意味がある。

「海軍兵学校 102 分隊会報」18 号 (2008 年 11 月) から転載 (日本キリスト教団 (高知県) 安芸教会員)

ブラジルアリアンサの地より [伝道年誌]

会員 下桑谷浩牧師

「すると御使いが言った。怖がることはない。マリアあなたは神から恵みを受けたのです。御覧なさい。あなたは身ごもって、男の子を産みます。名をイエスとつけなさい。」 ルカ 1 : 30 - 31

今年も〔08年〕も残すところわずかと為りました
(09. 3. 31受領、約4ヶ月の遠路)

こちらは暑さ〔日中40℃〕と雨季とサマータイム
のなかにありますが、守られて12月に踏み込むこと
ができました。ここに皆様のお祈りと励ましとご支援
とを、心より深く感謝申し上げる次第です。

過ぎし1年を振り返りますと、

84年前、約700家族〔うちクリスチャン100余
名〕が送り込まれ、「コーヒーよりも人を作れ」との標
語のもと、乳と蜜との流れる里の建設を目指して、原
始林に開拓の斧が入れられました。開拓史にその名を
止めています。しかしそれは入植時のことで、長い世
俗の波に洗われ、その面影はありません。さらに一世
が去り、殆どの若者がサンパウロや日本に流出し、少
子高齢化が進みつつあり過度の状態にあります。その
ため積荷〔働き〕を減らし教会暦行事を軸に礼拝、日
曜学校、早天祈祷会、聖研〔ハーベストタイムのマン
スリービデオ、P・D・Sテキストなどを用いて〕な
どを行いながら航海を続けておるところです。さらに
船内〔教会〕で3名の方の葬儀、10名の方の召天者
記念会を行いました。地域的には、移民100周年記
念祭、入植祭、先没者慰霊祭、落成式等のミサ〔礼拝〕
を行いました。他方、全盛時に増改築した建物を含め、
段々畑のような1600坪の敷地の清掃、整備も大き
な仕事のひとつで『陣営を清くしなさい』とのお言葉
に従い、毎週の「奉仕日」を設けて維持管理に勤めて
います。アカデミー「アドラムの家」の建設について
10有余年の祈りの末、移住組合の所有地の一部を借
りる方向で「書類提出」にこぎつけました。あとは理
事会での審査と株主総会での議決によって借りること
ができます。しかしそれまでにはまだまだ祈っていかな
ければならない課題があります。なお「地域に根ざ
した教会を」との要望に答えるため、アカデミー内に
「大草原の小さな家」のような教会を作りたいと、ビ
デオテープを購入し、研究、検討を重ねているところ
です。もうひとつは『聖書と農業』を取り上げ学んで
います。そのひとつが「ミレーのアンジェラスの鐘」

一その一；教会の鐘を合図に夫婦の百姓が祈っている。

私達も一日の仕事の終わりに、その歓びを神様に
感謝を捧げましょう。

一その二；ミレーの絵が有名になったのは、百姓を愛
し、キリストの心を心として画いたからです。私
達も生産者、消費者の立場を考えることは当然で
すが、神の視点に立ちキリストの心を心として、
牛を育て果樹を作りましょう。

と、このようなことを勉強しています。

さらに後には『イスラエルの農業』を取り上げる予
定でいます。

なお、残る12月、第三アリアンサ〔富山村〕、弓場農
場、そして教会でのクリスマス行事を予定しています。

これらがこの1年のささやかな働きです。とにかく
船を目指す港〔アカデミー〕に着けなければ為りませ
ん。老朽した船〔教会〕老いた船員〔教会員〕を接岸、
上陸させるためには、波が高く、困難が伴います。無
事に着けるように更なるご加護をお祈りください。

よきクリスマス、よき新年をお迎えられますように主
にありて祈りつつ、御礼と報告まで。

2008年12月

追伸 私 個人的には75歳の老兵、時には針、マッ
サージ、トレーニングに労働を加えての日々です。女
医さん曰く、「骨が磨り減っています」とカルシウムを
飲まされています。とにかく不思議に生かされてい
ます。こちらは晴れると40℃位暑くなり、パイナッ
プルなど果物が早く熟れだし大変です。いつも皆に食
べに来て・・・と叫んでいます。でも遠過ぎて残念で
す。

IGREJA EVANGELICA ALIANCA
REV HIROSHI SHIMOKUWAYA
C, P. 543-PRIMEIRA ALIANSA
16800-973-MIRANDOPOLIS-SP-BRASIL
FONE/FAX (18) 3708-1265

献金感謝 (2008.12.1-2009.3.31)

いつもコルネリオ会を覚えていただき感謝致します。

松山曉賢、今市宗雄、中野久永・しのぶ、玉井佐源太、
武宮啓夫、矢田部稔、伊澤薫、河内俊介、郷家一二三、
加瀬信吾、谷岡博志、圓林栄喜・さゆり、飯塚正実、
加瀬典文、山下和雄、原和誠、井坂玲子

コルネリオ会 (JMCF)
(防衛関係キリスト者の会)

コルネリオ会広報室

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南 5-33-8 2-33

電子メール: hidekobu-sayuri_enrin1211@y3.dion.ne.jp

郵便振込口座 00130-3-87577 コルネリオ会

コルネリオ会ホームページ:

<http://jmcf.s302.xrea.com/indexeng.html>